

第 22 回 朝来市公共交通会議 会議録

○ 開催日時 令和 6 年 8 月 6 日 (火) 午後 2 時から午後 4 時まで

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 4 階 会議室

○ 出席者氏名

	出席者	欠席者
委員	天 野 修 二	森 口 洋 平
	黒 崎 崇 裕	卷 野 めぐみ
	清 瀬 真紀子	井 上 学
	山 口 忠 司	新屋敷 昭 一
	大 北 立 秋	浅 田 繁 市
	小 田 正 儀	西 垣 尚 子
	山 本 正 之	
	小 谷 豊 彦	
	高 品 浩	
	木 原 健 太	
	山 本 良太郎	
	熊 谷 樹一郎	
	藤 野 隆 志	
	藤 本 修	
伊 藤 宣 廣		
事務局 (都市整備部都市政策課)	部 長 小 谷 康 人	
	課 長 京 住 真 志	
	副課長 足 立 智 義	
	上席主査 大 林 厚 之	
	主 査 中 治 佑 介	

○ オブザーバー (欠席) 兵庫県交通政策課 副課長 新 田 博 史

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 皆様、非常に暑い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。
今年の夏もかなり厳しい夏となっております。皆様もご身体にはどうぞ、ご自愛いただければと思います。

本日は報告事項4件と、朝来エリアでのデマンド型乗合交通の導入に関する協議が二つございます。本日は皆さまから忌憚のないご意見をいただきまして、慎重審議賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) 地域公共交通施策に係る主な取組状況について（前回会議以降）

事 務 局：【資料1に基づき説明】

(2) 朝来市デマンド型乗合交通（生野エリア）の運行状況

事 務 局：【資料2に基づき説明】

委 員： 通勤・通学者の人数が増減している理由は何か。また、観光客の方については、市外の方が多いのか、市内の方もおられるのか。

事 務 局： まず、通勤の方については、現在2名が定期的に利用している。1名は和田山駅から生野駅まで行かれて、生野駅からデマンド型乗合交通で会社へ通勤されている。もう1名の方は、生野町内の方で、町内での利用で通勤されている。通学の方については、生野学園の生徒さんが利用。当初は様子見であったものが、徐々に慣れてこられ、利用人数が増えてきている。生野高校の学生さんにも使っていただければと思っているが、今後、生野高校の学生さんとは、別途、公共交通を考える会を設ける予定としており、学生さんの意見を聞きながら進めていきたい。

観光利用については、市外の方もおられるが、市内の方で黒川温泉に行きたいというような利用も含んだ数字となっている。デマンド型乗合交通について、市外からの観光客の方に対しては、まだ十分には伝えられていない状況である。今後、専用ホームページの開設などにより、市外の方に対しても、情報発信、周知を図っていく。

会 長： 以前の会議で、デマンド型乗合交通について、大量輸送は出来ないとすれば、利用者の内容を見た方がいいとの指摘があった。いわゆる、交通弱者の方々がどれくらい利用されているのかを注視してはどうかとの意見。今回、数字には出てきていないが、現状、感覚的にどういうふうな解釈をされているか。

事 務 局： デマンド型乗合交通は、幹線となる鉄道や路線バスに繋ぐ目的で運行している。町内の病院に行かれる方、生野駅から鉄道や路線バスに乗り継ぎ、神崎病院や朝来医療センターに行かれる方などの人数について、事務局の方で把握をしながら、利用者の分析をしっかり行っていきたい。

会 長： 長期的に継続して運用していけるかどうか等、事業採算性については、今後、精査していく予定か。

事務局： 現在、デマンド型乗合交通の導入を進めながら、路線バスの再編作業を今後、行っていく予定。現在は並行して運行しているため、デマンド型乗合交通の経費がプラスされた状態。今後、デマンド型乗合交通が本格運行となった後、路線バスの整理も行いながら経費を縮減し、これまでの路線バス、アコバスの形式での運行経費内で、デマンド型乗合交通を運行していく。

委員： 手続きの確認。生野エリアは今年10月から本格運行に移行だが、手続きとして区域乗り合いを取っていたか。

事務局： 4月1日の運行を始める前に、区域エリアの許可を取っている。

委員： 12ヶ所のミーティングポイントを集約するということが、地元への周知は終了しているか。

事務局： 今後、本格運行版のパンフレットを配布し、生野エリアの方に対して周知を図っていく。また、専用ホームページでは、乗降場所をデータ処理できるため、適時修正が可能。最新の情報については、ホームページで確認いただくよう案内していく。

委員： 市内全域にデマンド型乗合交通を導入することについて、市内の民間のタクシー会社やバス事業者に対する影響については、どう考えているか。

また、生野エリアの運行実績を見ると、前回の会議の中でも乗合率等が出ていたが、ほとんどタクシー事業と変わらない状況。毎日10便を運行し、既存のタクシー事業者のそもそもの事業が圧迫されていないか疑問。

先ほど、市の採算については説明いただいたが、市から委託を受けている事業者側の収支がどうなっているのか。市の公共交通に対する目標によって、頑張っている民間事業者が業務を圧迫されることは、あまりいいことではない。

事務局： 既存の民間のバス事業者、タクシー事業者への影響について、基本的に市の考えとしては、枝葉のフィーダー部分の移動についてデマンド型乗合交通が担い、路線バスや鉄道に繋ぐことで、幹線となる路線バスや鉄道の運行の支障にならないような運行を目指している。したがって、幹線が走っているところの移動については、既存の路線バスや鉄道といった幹となる公共交通機関を使っていただくよう周知を図っている。また、デマンド型乗合交通を導入した目的や幹線の重要性について、公共交通ワークショップ等を通じ、市民の方へお知らせをしている。

乗合率については、ご指摘の通り、現在のところ乗合が常時発生しているという状況にはなっていない。オペレーターの差配や同じ方向に移動される方は乗り合っていただく等の工夫をして乗合率を高めるよう努めていく。

事業者側の収支については、現在4ヶ月余りの運行ということで、現在のところはまだ分からない状況。事業者が苦しまない形の運行は当然であるが、事業者と調整をしながら、今後、協議していく必要があると考える。

委員： 生野エリアでの運営管理において、遠隔点呼等の先進的な取組をされているようだが、取組状況や内容はこういったものか。

事務局： 生野エリアについては、遠隔点呼という点呼方法を取っている。本来、点呼は対面で行うのが原則で、運行管理者に対して出勤時に健康状態、車両の状態等を点呼した上で乗務を開始し、乗務後には距離数や運行状況等を対

面で報告するというものであるが、対面と同じような状況が作れる場合、タブレット上での遠隔点呼も可能となる。導入の背景については、運行事業者の規模等も考慮し、少しでも事業者の負担軽減を図るため、また、遠隔点呼により、確実な点呼を行えるということ、運行管理に関する帳票の管理といった観点からも導入を決定した。

なお、朝来エリアについては、朝来エリア内の事業者に運行を委託する予定だが、既に自社で点呼管理システムを実施しており、そのシステムにデマンド型乗合交通運転手の点呼も含めていただく予定。遠隔点呼の導入については、各エリアの運行事業者の状況に合わせ、導入の有無を決定していく。

委員： 生野エリアでの運営管理の主体はどこになるのか。

事務局： 遠隔点呼をお願いしている会社は、日野自動車。日野自動車が点呼を受け付け、運行管理者である生野タクシーに点呼の状況を都度、報告している。

(3) 朝来市デマンド型乗合交通に関するアンケート調査の結果（速報値）

事務局：【資料3に基づき説明】

委員： デマンド型乗合交通について、これを継続していくとともに利用頻度を高めていくため、9月の区長会からアンケートを取り、継続に向けて取り組む予定。昨日、これらについての申し合わせを行い、9月から実際に継続に向けた目標値を示していきたい。今回の市のアンケート結果も見て、しっかり検討していきたい。

委員： 9ページのアンケートの中で、予約して思ったことについて、「予約したい時間帯に予約できなかった」が10パーセントあるが、時間帯としては何時ぐらいが多いのか。

事務局： 一概には言えないが、朝の時間帯が多いように思う。

委員： 利用人数が4月の当初に比べて7月で150人ぐらい増えている。今後、さらに増えていった場合、この「予約できなかった」という方が増えていくと思う。これに対する対応が必要。

事務局： ご指摘の通り。乗りたいときに予約出来るのが理想的ではあるが、乗合交通ということでタクシーではないということは、住民説明会等でも周知を図っている。実際に希望の時間に予約出来なかった方も一定数おられるが、オペレーターにおいて、その日のうちでその時間帯の移動が必須なのか、違う時間帯でも大丈夫なのか等、利用者と話しながら予約可能な時間を取っていく等、工夫をしている。市民の皆様に対しては、自分が移動したいときに移動できない可能性があるということは、今後、十分に周知が必要である。

委員： タクシー感覚で思っておられる方もあるかもしれない。今後の住民説明会では、タクシーではないことを十分に説明しておく必要がある。事務局には十分な説明をお願いしたい。

委員： 初期の段階のアンケート調査なので、まだまだ分析が必要。回収率が70パーセントだが、残りの30パーセントの方にも何らかの意思表示が行えるような仕掛け作りが必要。また、利用したことがない155人の意見を大事にすることが、今後の利用率向上に繋がる。回答者の中には、自分の自動車を利用される方も結構多いが、それらの方を除いた交通弱者の方の利便性

を上げるという観点で更に分析されるといい。10 ページの運行時間について、「特に問題ない」が 54 パーセントだが、46 パーセント方は何らかのご要望がある。この何らかのご要望がある方のご意見も大切にして、少しでも交通弱者の方の利便性向上を図っていく必要がある。

事務局： 今回のアンケートについては、運行開始から約 3 ヶ月が経過し、現在ご利用されている方、また、利用はされていないが自宅登録をされている方が、今現在どう思っているか意識調査を行った。アンケート調査については、誰を対象にアンケートをするかによってアンケートの取り方も変わってくる。今後、研究しながら進めていく。また、運行時間については、利便性を考えると当然、朝早くから夜遅くまで運行してほしいという意見が出てくるが、事業費面やドライバー不足の現状等を加味していく必要がある。

(4) 令和 6 年度朝来市地域公共交通ワークショップの実施状況

事務局： 【資料 4 に基づき説明】

委員： この内容だけ見ると、利用しづらい等の個人の意見がたくさん出たことはよくわかるが、結果的にワークショップのまとめの部分が見えない。それぞれの意見も大切だが、何かまとめのものがあった方がいい。

事務局： 今回は出された意見について取り急ぎ、報告した。今後、意見を取りまとめ、ホームページで公開をしていく。また、今後の公共交通会議でも取りまとめた内容を報告予定。

4 協議事項

(1) 朝来市デマンド型乗合交通（朝来エリア）の運行に係る自家用有償旅客運送の登録申請に必要となる「地域公共交通会議等において調った協議内容（案）」について

事務局： 【資料 5 に基づき説明】

委員： 運賃について、見直しのタイミングはあるのか。

事務局： 現在のところはこの内容で市内全域、統一した基準で進めていく。見直しに際しては条例改正も必要となる。今後は、しかるべきタイミングで見直しの必要性について、協議を行う。

委員： 生活困窮者の方から利用料を取ることに少し違和感がある。

会長： 利用料については、やはり根拠が必要。先ほど指摘があったように運行事業者の収支状況の分析も行い、それらを基に議論を進めることが本来あるべき姿。

委員： 運行形態等の確認だが、エリアを跨がないという整理でいいか。運行事業者は決まったか。

事務局： エリアは跨がない。運行事業者については、正式には決定していないが、タクシー協会等と調整している。

委員： 整理をしないといけない点もあるかもしれない。詳細はまたお聞きする。

(2) 朝来地域内コミュニティバスの休止申請について

バス事業者： 【資料 6 に基づき説明】

委員： 今回デマンド型乗合交通に移行するからこのエリアのアコバスを廃止するという理解でいいか。

事務局： アコバスの運行については、第3次再編指針において、デマンド型乗合交通の導入に合わせ順次廃止することが決まっている。朝来エリアについては、9月末日を以ってアコバスの運行を終了し、10月1日からデマンド型乗合交通を運行する。

委員： アコバスをご利用の方がデマンド型乗合交通に移行している。そこを何か図や数値等により説明していただきたい。

事務局： 9月に朝来エリアで下半期のあこかを販売予定。そこで購入される枚数がアコバス利用からデマンド型乗合交通利用に変わる主な数と考える。上半期の購入数と比較し、今後の公共交通会議で報告する。

委員： デマンド型乗合交通はミーティングポイント方式か。また、バス停と共用するところはあるか。

事務局： 自宅付近または89か所のミーティングポイント間の移動。ミーティングポイントの中には幹線となる路線バスとの接続のため路線バスのバス停も含まれる。必要な手続きについては関係機関と調整している。

委員： 今後、朝来エリア、和田山・山東エリアと広いエリアへの導入が進んでいく。本日いただいた意見を十分取り入れていきたい。今後とも引き続き、各立場からご指導をいただきたい。

5 その他

事務局： 今後の公共交通会議について、次回の第23回を10月8日、第24回を12月19日、第25回を2月25日、いずれも開催時間は午後2時からで、会場は朝来市役所本庁舎内会議室にて開催予定。

委員： 今後、朝来エリアで住民説明会が開催されるが、日程や開催場所について各区長から意見あり。デマンド型乗合交通については、必要性が高い地域とそうでない地域とで温度差がある。説明会の会場までの移動手段がなく乗り合って参加する区もあれば、どうしようという区もある。また、地元の公民館で開催してくれればという意見もある。今後、和田山・山東エリアで説明会を開催する際には、日程や開催場所等、事前に区長に対しても十分周知をお願いしたい。

委員： あこかについて、有効期限の記入が見つらい場合がある。今後、発行される場合は見やすいように記入するようお願いしたい。

事務局： 随時販売時の有効期限について、太いマジックで書くよう再度、徹底する。

6 閉会

副会長： 4月から生野エリアでデマンド型乗合交通を開始し、来年に向けて市内全域に広げていくが、本来の目的である交通手段のない方の利用、あるいは利便性が良くなり市民生活のサービス向上に役立てればいい。今後とも委員の皆さんには有意義な議論、協議をしていただきたい。